

## 『高温の路面に順応出来ず、、悔しい結果に、、次戦に期待』



シリーズ名 : 2025 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.5 「SUZUKA GT300 km RACE」

レース距離 : 1周 5.807km×52周 (301.964km)

8月23日(土) 天候:晴 コース状況:ドライ

公式予選:GT500 クラス 9位:1'54.049

舞台を鈴鹿サーキットに移し、迎えた第5戦。これまで鈴鹿サーキットは年2回開催が多かったが、今年は、この第5戦、1回限りとなる。天候は晴れているものの、台風の影響からか、午前中から気温や路面温度、湿度が高く、明日の決勝とのコンディションの差異がどう影響するか、難しい判断となるだろう。

前戦では、ノーウェイトの変則的なフォーマットであったが、この第5戦ではウェイトが復活。19号車は23kgを背負い戦うこととなる。

午前中に行われた練習走行では、薄曇りの中、スタート時の10時過ぎで気温/路面温度が32度/40度と高い。混走時間帯、阪口選手が混走時間帯の6周目に出したタイムが終盤まで3位のタイム(最終アタックで12号車が上回った)となり、混走時間中の赤旗中断後、混走時間、500占有時間を通して国本選手が決勝に向けて、周回を重ねていく。練習走行での順位は4位。



午後 3 時 15 分から開始となった予選セッション、午前中から更に気温／路面温度が上がり（34 度／47 度）300 クラスの Q1 が終わり、3 時 48 分からの Q1 でのアタックは阪口選手。

いつものようにセッション開始直後に誰もピットから出ないまま、先陣を切ったのは 23、12 号車の日産車。その後、残り 9 分で 24 号車と 3 台のスーパーが出た後、19 号車も残り 7 分 20 秒でコースイン。アタックに入るため周回を重ねていく。

残り 2 分を切り、各車アタックに入る中、19 号車も 3 周ラップし、残り 20 秒でアタックに入った。阪口選手は第三セクターで全車ベストラップを出すと、1:45.867 と暫定 3 位のタイムで終了。その後、19 号車のタイムを上回る車両がなく、Q1 を 3 位で通過することとなった。

Q1 の結果は、12-16-19-23-3-14-64-38-100-24-（以上 Q1 突破）-37-8-1-17-39 となりました。

Q2 は国本選手がアタック。やはり、静かなスタートとなった中、Q1 と同様に 23、12 号車の Z 勢が早いコースインとなる。程なく 24 号車も出ていくが、8 分を切るあたりで各車がコースイン、19 号車も残り 7 分 30 秒でピットアウトし、残り 40 秒で一発アタックに入るも、シケインでコース外に飛び出してしまったため、最終周のアタックタイムが抹消となり、前週のタイム 1:54.049 が Q2 の結果となり、9 位で予選を終えることとなりました。

Q2 の結果は、16-23-3-24-12-64-14-38-19-100 となります。



【予選終了後 坂東監督コメント】



『ちょっと今回はトップとの差がありました。軽いスーブラなので前からのスタートを狙ってましたが、ちょっと歯車が合わなかったですね。

明日の決勝は中盤からの追い上げとなりますが、表彰台のトップを目指して爆走していきます。皆様の応援、宜しくお願いいたします。』

8月24日(日) 天候：晴 コース状況：ドライ

### 決勝：GT500 クラス 14位

猛暑の8月に三重県鈴鹿サーキットで開催される第五戦。午後3時からで気温の峠は越したとはいえ、気温/路面温度が35度/52度と厳しいことは変わらない。

300km、52週のレースは、どのような結果をもたらすだろうか。

決勝前、14時から行われたウォームアップ走行では、阪口選手がドライブして、その後、国本選手に交代して終了した。国本選手がスタートドライバーとなり9番手スタートと中団からの追い上げとなる。三重県警の白バイ・パトカー先導のパレードラップが1周、その後のフォーメーションラップ1周、合計2周周回後、レースの火蓋が切られた。オープニングラップは大きく順位が変わることなく、19号車も9位のまま。前の38号車の背後につき、様子を伺う。

トップの16号車が2位以下を引き離し、2位以下が数珠つなぎで並んで走行している中、130Rで4位の24号車が外に飛び出し順位を落とし、19号車は8位となる。前の38号車との差は1秒程度、後ろの37号車とは1秒以下のまま、周回を続けていく。

4周目、14位の17号車がシケイン手前から前の24号車と接触。コース外に飛び出しクラッシュ。その影響で5周目にSCが入ることとなる。19号車の順位は8位のまま。

17号車の撤収作業が完了した9周目にSCのランプが消え、10周目からレースが再開。長いSCでタイヤが冷えたのか、再開直後はどの車もウイーピングしながら1コーナーに飛び込んでいった。再開後も38号車との7位争いが続くこととなる。

レースの1/3が過ぎた19周目に1回目のピットに入る車両が多数出る中、19号車はコースに残る選択をし、20周目は暫定2位、21周目には暫定1位の14号車がピットに入ったため、暫定1位での走行となる。暫定1位の19号車に暫定2位の39号車が追いついてきたが、24周目に19号車がピットを敢行。阪口選手にドライバーチェンジし、フルサービスを受け、コースに復帰、暫定12位でコースに復帰する。

32周目で19号車は暫定11位。最後までピットに入らなかった39号車が33周目にピットに入り、全車1回目のピットが終了した34周目の19号車の順位は11位。

35周目に300クラスの車両がデグナー二個目出口先のダートに止まったため、FCYが入ることとなった。FCY中に前とは離れてしまい、36周目に解除。直後、36周目のシケインで後ろの8号車にパスされ12位に。ペースの上まらない19号車は42周目に37号車、そして24号車にパスされ14位に後退してしまう。残り8周でタイヤを再度交換しないといけない状況になりピットイン。

残り5周、バックストレートのコース上のデブリ回収のため、FCYが入るが翌周解除されてレースが再開。19号車は苦しい中、ゴールまで走りきり、14位でチェッカーを受けることとなりました。

レースは、オープニングラップから2位以下を引き離しにかかる16号車も、5周目に入ったSCでの周回で2位以下のマージンがなくなり、SC再開後も一時16号車が離すものの、14周目に23号車が追いつきトップ争いが激化する中、19周目に両者がピットインし、僅差で23号車が16号車の前に出るとそのままトップを死守し、その後14号車に迫



られるも、結果、トップでチェッカーを受けることとなりました。

決勝結果は 23-14-3-16-38-39-64-12-1-100-8-37-24-19- (以上完走) -17 となります。



## 決勝コメント

【坂東監督】



『国本選手の最初のスティントは良かったとも沢山ありました。前の車に引っかかってしまっ、引っ張る事は出来なかったです。

最終的に全く求める成績ではありませんでした。

本当に申し訳ありません。後半スティントのタイヤは勝負を賭けたのですが僕の選択ミスです。

皆さんの応援、誠にありがとうございました。次戦は表彰台の真ん中を目指して爆走していきます。』

【国本選手】



『高負荷なサーキットに高温の路温に順応できず、厳しいレースになりました。

予選はパフォーマンスがありながらも自分のミスで順位を落としてしまい、それがきっかけでレースも厳しい展開になってしまいました。

次戦の養生に向けてテストもありますし、コンディションを整えて良いレースができるようにします。』

【阪口選手】



『決勝は 14 位でした。ファーストスティントは国本さんが良いペースで粘ってくれました。僕が担当した 2 スティントではコンパウンドを変え、攻めましたが路温に合わず後退してしまいました。1 ピット増えてしまい勝負権を失ったので悔しいレースとなりました。このようなコンディションに次戦はならないはずなのでチャンスを活かして戦います。今大会も応援ありがとうございました。』

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO

<http://www.bandohracing.com/>

